

平成31年度

第1学年 音楽科指導計画表

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時 数
中学生の音楽1年 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育出版社)	合唱曲集コーラスフェスティ バル	佐々木香奈・岩沼久恵	週 1~2 時間 年 4 5 時間

1 教科目標

- (1) 音楽に進んで親しみ、意欲的に表現し鑑賞する態度を養う。
- (2) 曲の持っている良さや特徴を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫したり、発声や言葉の表現に気を付けて歌う態度を育てる。

2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 ご と の め あ て
	評 価 の 方 法
関心・意欲・態度	意欲的に表現しようとしている。積極的に声を出し、自分の声を確認している。授業の振り返りをし、カードに反省・感想を記入する。 観察, ワークシート, 自己評価カード
創意工夫	歌詞や旋律の美しさを味わい、演奏の工夫を考え、それを生かして表現しようとしている。 観察, 発表, ワークシート, 自己評価カード
表現の技能	他の声部を聴きながら自分のパートを歌うことができる。詩に込められた思いや曲想を感じ取って表現することができる。楽器の基礎的な奏法を身に付け、音色や声部の役割と全体の響きに関心を持ち表現をすることに意欲的である。 観察, 発表, 自己評価カード
鑑賞の能力	曲の特徴を理解し楽器の音色を味わいながら、場面の雰囲気と音楽との関係を感じ取りながら聴くことができる。日本の伝統音楽の特徴を感じ取りながら鑑賞することができる。 観察, ワークシート, 自己評価カード

3 学習計画

【1学期】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	歌声をつくろう ・ 「校歌」 ・ 「My Voice !」	4	・ 新しい仲間と歌う喜びをわかちあい、音楽学習への意欲、態度を育てる。 ・ 発声練習や姿勢の確認	
5 6 7	合唱の喜び ・ 「夢の世界を」 ・ 「各学級自由曲」 ・ 「大切なもの」	10	・ 歌詞を読み、内容について考える。 ・ CDなどにより、合唱各パートのメロディーの範唱をきく。 ・ 自分の合唱の喜び ・ 「夢の世界を」 ・ 各学級自由曲パートのメロディーをおぼえる。 ・ 他の声部を聴きながら合唱する。 ・ 各パートのバランスを考え、曲想表現をする。	

8			
9		3	<ul style="list-style-type: none"> 作曲者について説明を聞く。 弦楽合奏曲を鑑賞する。
10	イメージをふくらませて 聴こう ・鑑賞「春 第一楽章」 心の歌 ・「浜辺の歌」 ・「赤とんぼ」	2	<ul style="list-style-type: none"> 作詞者や作曲者について説明を聞く。 歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫する。

【2学期】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
11	アルトリコーダーの表現を楽しもう ・「アルトリコーダー」 P4～P13 他～	6	<ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの基礎的な奏法を身に付ける。 リコーダーの持つ美しく豊かな音色を感じ取り、それらを生かした表現を工夫する。 他の声部との響き合いを意識したアンサンブルができるようになる。 	
12	曲の雰囲気を感じ取ろう ・鑑賞「魔王」	4	<ul style="list-style-type: none"> 旋律や形式などの働きによって生み出される曲の雰囲気や曲想を感じ取る。 詩にふさわしい旋律をつくり、声で表現する。 	
1	歌詞と曲想の関わりを感じ取ろう ・ My Melody ・「エーデルワイス」	4		
2	日本の音楽に親しもう ・「日本の楽器の響き」 箏 ・「六段の調」「巢鶴鈴慕」	6	<ul style="list-style-type: none"> 日本の楽器の響きの魅力や郷土の音楽の良さを味わい、我が国の音楽に親しむ。 	
3	旋律の重なりを感じて歌おう ・「Let's Search for Tomorrow」	2	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の重なり合いやパートの役割を感じ取って表現を工夫する。 	

4 授業への取り組み方、準備物

音楽は技能教科の一つで、表現活動を通して学習が進められます。教科書やリコーダーなどを忘れてくるなどということは問題外です。表現活動には積極的に取り組み、より良い音楽を創るさまざまな創意工夫を試みる事が大切です。

また、鑑賞の授業では、根拠を持って音楽を批評する能力が要求されます。批評するためには多くの知識と鋭い感性が必要です。ただ聞き流すことなく、指示された観点も含めて自分の五感を十分に使いながら「味わう」事が大切です。

5 家庭での学習方法

授業では主にクラシック音楽システムの学習になります。家庭では、ジャンルを問わずに色々な音楽に触れることを勧めます。音楽の好みは人それぞれですから、まず、自分の好きなジャンルを見つけ、そこから他のジャンルの音楽に興味を広げていってほしいと思います。

第2学年 音楽科指導計画表

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時数
中学生の音楽2・3年上 (教育家芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社)	合唱曲集 コーラスフェスティバル	岩沼久恵	週1時間 年35時間

1 教科目標

- (1) 音楽に進んで親しみ、意欲的に表現し鑑賞する態度を養う。
- (2) 曲の持っている良さや特徴を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫したり、発声や言葉の表現に気を付けて歌う態度を育てる。

2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 ご と の め あ て
	評 価 の 方 法
関心・意欲・態度	意欲的に表現しようとしている。積極的に声を出し、自分の声を確認している。授業の振り返りをし、カードに反省・感想を記入する。 観察, ワークシート, 自己評価カード
創意工夫	歌詞や旋律の美しさを味わい、演奏の工夫を考え、それを生かして表現しようとしている。 観察, 発表, ワークシート, 自己評価カード
表現の技能	他の声部を聴きながら自分のパートを歌うことができる。詩に込められた思いや曲想を感じ取って表現することができる。楽器の基礎的な奏法を身に付け、音色や声部の役割と全体の響きに関心を持ち表現をすることに意欲的である。 観察, 発表, 自己評価カード
鑑賞の能力	曲の特徴を理解し楽器の音色を味わいながら、場面の雰囲気と音楽との関係を感じ取りながら聴くことができる。日本の伝統音楽の特徴を感じ取りながら鑑賞することができる。 観察, ワークシート, 自己評価カード

3 学習計画

【1学期】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	歌声をつくろう 自分の声を知ろう ・「校歌」 ・「翼をください」 ・「夢の世界を」 ・My Voice 他	3	・ 新しい仲間とともに歌い音楽学習への意欲、態度を育てる。 ・ 発声練習や姿勢の確認 ・ 声域調査	
5	曲の仕組みや楽器の音色の特徴を感じ取り、曲の魅力を感じて聴こう 「フーガト短調」	2	・ フーガの仕組みを理解し、パイプオルガンの響きの良さを味わいながら鑑賞する。 ・ 楽曲の全体像をつかみ諸要素の働きや声部の役割を考えた、豊かな響きで深みのある表現を工夫して合唱する。	
6 7	合唱の喜び ・ 「Let's Search For Tomorrow」	7	・ 他の声部を聴きながら合唱する。 ・ 歌詞を読んだりCDを聴いたりして、曲の内容や表現の工夫について考える。	

	・各学級自由曲		
8 9	心の歌 ・「夏の思い出」 ・「荒城の月」	4	・ 作詞者, 作曲者, 曲について学習する。 ・ 歌詞の内容や曲想を感じ取って表現する。
10	リズムを作って, 表現しよう ・ 創作 ・ 「RHYTHM GAME」	2	・ 拍子, リズムの特徴を理解し, 創作表現することができる。

【2学期】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
10 11	工夫して器楽アンサンブルを作り上げよう	7	・ 楽器の基本的な奏法を身に付け, 工夫して表現するとともに, アンサンブルの楽しさを味わう。	
12	曲の仕組みを理解して聴こう ・ 「交響曲第5番ハ短調」	2	・ 交響曲の仕組みを理解する。 ・ オーケストラの楽器や音色を感じ取りながら鑑賞する。 ・ いろいろな交響曲を鑑賞する。	
1 2	オペラの名曲を味わおう ・ 「アイダ」 ・ 「オペラの名曲」	2	・ オーケストラと声とが生み出す豊かな表現を味わうことができる。	
3	日本の伝統的な音楽や世界の諸民族の音楽の特徴や表現を味わおう ・ 「歌舞伎」 ・ 「世界の諸民族の音楽」等	3	・ 日本の伝統芸能の魅力や郷土の音楽の良さを味わい, わが国の音楽に親しむことができる。 ・ 世界の諸民族の音楽に親しむことができる。	
	合唱の表現を楽しもう ・ 「大地讃頌」等	3	・ 合唱に親しみ, パート練習に積極的に取り組むことができる。 ・ 諸要素の働きに注意して, 合唱表現を工夫することができる。	

4 授業への取り組み方, 準備物

音楽は技能教科の一つで, 表現活動を通して学習が進められます。教科書やリコーダーなどを忘れてくるなどということは問題外です。表現活動には積極的に取り組み, より良い音楽を創るさまざまな創意工夫を試みる事が大切です。

また, 鑑賞の授業では, 根拠を持って音楽を批評する能力が要求されます。批評するためには多くの知識と鋭い感性が必要です。ただ聞き流すことなく, 指示された観点も含めて自分の五感を十分に使いながら「味わう」事が大切です。

5 家庭での学習方法

授業では, 主にクラシック音楽系統の学習になります。家庭では, ジャンルを問わずに色々な音楽に触れることを勧めます。音楽の好みは人それぞれですから, まず, 自分の好きなジャンルを見つけ, そこから他のジャンルの音楽に興味を広げていってほしいと思います。

平成31年度 **第3学年 音楽科指導計画表**

使用教科書	使用補助教材	教科担当者	時 数
中学生の音楽 2・3年下 (教育芸術社) 中学生の器楽(教育出版社)	合唱曲集 コーラスフェ スティバル	佐々木香奈	週1時間 年35時間

1 教科目標

- (1) 音楽に進んで親しみ、意欲的に表現し鑑賞する態度を養う。
- (2) 曲の持っている良さや特徴を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫したり、発声や言葉の表現に気を付けて歌う態度を育てる。

2 評価の観点と評価方法

観 点	観 点 ご と の め あ て
	評 価 の 方 法
関心・意欲・態度	意欲的に表現しようとしている。積極的に声を出し、自分の声を確認している。授業の振り返りをし、カードに反省・感想を記入する。 観察, ワークシート, 自己評価カード
創意工夫	歌詞や旋律の美しさを味わい、演奏の工夫を考え、それを生かして表現しようとしている。 観察, 発表, ワークシート, 自己評価カード
表現の技能	他の声部を聴きながら自分のパートを歌うことができる。詩に込められた思いや曲想を感じ取って表現することができる。楽器の基礎的な奏法を身に付け、音色や声部の役割と全体の響きに関心を持ち表現をすることに意欲的である。 観察, 発表, 自己評価カード
鑑賞の能力	曲の特徴を理解し楽器の音色を味わいながら、場面の雰囲気と音楽との関係を感じ取りながら聴くことができる。日本の伝統音楽の特徴を感じ取りながら鑑賞することができる。 観察, ワークシート, 自己評価カード

3 学習計画

【1学期】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
4	歌詞の美しさを味わって歌おう 「花」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の美しさを味わいながら、日本の歌曲に触れる。 ・ 楽曲の特徴である歌詞の美しさや旋律の特徴に関心を持ち、イメージを持って表現する。 ・ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する。 ・ 校内合唱コンクールへの参加を通して、いろいろな合唱曲に取り組み、表現の工夫や合唱を愛好する心情を育てる。 	
5	合唱の喜び	10		
6	・ 課題曲「大地讃頌」			
7	・ 自由曲			
8	リズムパターンで構成する音楽の楽しみ 「Let's Create」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ リズムパターンに関心を持ち、それらを組み合わせて演奏したり、全体のまとまりを工夫したりしながら音楽を構成する。 ・ 作品の成立した背景から、他の芸術との関連や作品の本質を理解する。 ・ 詩や曲が作られた背景を理解して、 	
9	曲の背景を知って味わおう 「春の祭典」他	2		

10	詩に込められた思いを、 感じ取って表現しよう 「花の街」	2	曲に込められた思いを表現する。 ・ 作曲者の思いを感じ取り、それを生かして歌唱表現をする。
----	------------------------------------	---	--

【2学期】

月	題 材	時数	学 習 の ね ら い	備 考
10	ポピュラー音楽の魅力と 表現の工夫	5	<ul style="list-style-type: none"> ポピュラー音楽の特徴を感じ取りながら歌唱やアルトリコーダーで表現する。 	
11	「イエスタディ」他			
12	オーケストラの響きを味 わおう 「ブルタバ(モルダウ)」他	2	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色や音楽の様々な構成要素を聴き取り、曲を味わいながら聴く能力を育てる。 交響詩について理解し、曲想の変化を感じ取りながら鑑賞する。 	
1	旋律の流れや強弱を生か した表現 「早春賦」	2	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する能力を育てる。 	
2	日本の伝統音楽や世界の 諸民族の音楽を味わおう 「越天楽」「羽衣」他	3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統音楽の魅力やよさを味わい、我が国の音楽に親しむ心情を育てる。 世界の諸民族の音楽に親しむ心情を育てる。 	
3	心を込めて卒業の歌を歌 おう	5	<ul style="list-style-type: none"> リズムや和音、形式などの働きを理解して、合唱表現を工夫する能力を育てる。 音楽を形作っている要素を知覚し、それらを生かして表現する。 	

4 授業への取り組み方、準備物

音楽は技能教科の一つで、表現活動を通して学習が進められます。教科書やリコーダーなどを忘れてくるなどということは問題外です。表現活動には積極的に取り組み、より良い音楽を創るさまざまな創意工夫を試みる事が大切です。

また、鑑賞の授業では、根拠を持って音楽を批評する能力が要求されます。批評するためには、多くの知識と鋭い感性が必要です。ただ聞き流すことなく、指示された観点も含めて自分の五感を十分に使いながら「味わう」事が大切です。

5 家庭での学習方法

授業では、主にクラシック音楽系統の学習になります。家庭では、ジャンルを問わずに色々な音楽に触れることを勧めます。音楽の好みは人それぞれですから、まず、自分の好きなジャンルを見つけ、そこから他のジャンルの音楽に興味を広げていってほしいと思います。